



みらいこども園

7月号

2023年7月1日
田園調布学園大学
みらいこども園
園長 勝浦芳子

人との関わりを大切に

年に一度だけ、天の神様に許しをもらって彦星と織姫が逢えるという神話にあやかって、天を見上げて、星に願いを込める七夕の季節が近づいてきました。今年も、新城小学校の笹をいただいて、短冊に願い事を書いたり、飾り物を作ったりして楽しめます。すべてのお子さんと保護者の皆様の願いが天に届き、叶うことを心から祈ります。

さて、今年は、なかなか梅雨が明けず、毎日のように30度近くの蒸し暑さが続いています。その影響なのか、体調を崩すお子さんも増え心配しておりますが、ほとんどのお子さんは、「暑さなんか関係ないよ!」と言っているかのように元気いっぱい園生活を楽しんでます。「先生おはよう」「〇〇ちゃんおはよう」と保育室に入ってきては、「今日は何して遊ぼうかな?」と目をキラキラ輝かせています。泣いて登園するお友達もほとんどいなくなり、泣いていても、担任やクラスメイトの顔を見ると、ほっとするようで、涙はいつの間にか何処に…。みらいこども園が、安心できる場所になりつつあることにとっても嬉しさを感じます。保育者にも、「先生!見て見て!」と自分の存在をアピールするお子さんも多くなり、関わりや人の反応を楽しんでいます。規範意識も人との関わりから芽生え、ルールを理解できるようになりますので、大いに友達と触れ合って欲しいと思います。また、遊びに目を向けると、砂場遊び、水遊び、泥んこ遊び、泥団子作り、虫取り、花探し、カエル探し、野菜づくりなど、興味を持つものは人さまざまですが、身近な自然に親しみながら、好みの道具を使って満足するまで遊びを楽しんでいます。この自然体験から生まれる感動は、とても大切で、命の気配に触れることで、五官(目、耳、鼻、舌、皮膚)が生き生きと活動し始め、五感(見る、聞く、嗅ぐ、味わう、触れる)も、研ぎ澄まされていきます。今後も、自然に大いに触れられる遊びが展開していけるように環境を整えていきたいと思ひます。

また、4年ぶりに、新城小学校の5年生とにじ組との5・5交流が再開しました。6月13日、顔合わせと校内探検、6月21日は、バケツを利用して、お米の苗植え体験を行いました。初回は、初めての体験だったので、緊張しているお子さんが多かったのですが、小学生の温かい対応のお陰で、徐々に笑顔も出てきました。お別れの時には、すっかり仲良くなり、小学生のお兄さんお姉さんから、手づくりのカードや折り紙をプレゼントしてもらおうと、「今日は最高だね、たのしかったね。また遊びに来たいね。お手紙書こうね。」などと口ずさんでいました。田植え体験では、どろどろの土の感触が思った以上に初めての感覚だったので、反応はそれぞれでしたが、見ていて面白かったです。お米の種類は、神奈川県平塚市で作られている「はるみ」というもので、甘く深みのある美味しいお米だそうです。小学生が丁寧に伝えていたのが印象的でした。今回は、本園を修了した児童との再会もあって、成長した姿も見られ、二重の喜びでした。これからも交流活動は続きますが、少しでも、この体験で、小学校に興味関心を持ち、スムーズな就学につながることを願ひます。7月は、七夕コンサートやなつまつりといったお楽しみがあります。子ども達の感動体験になることを期待します。

5・5交流

楽しかったことを教えてくれる人いますか?



5年生と一緒に稲の苗植え



は〜い!



プールが始まりました